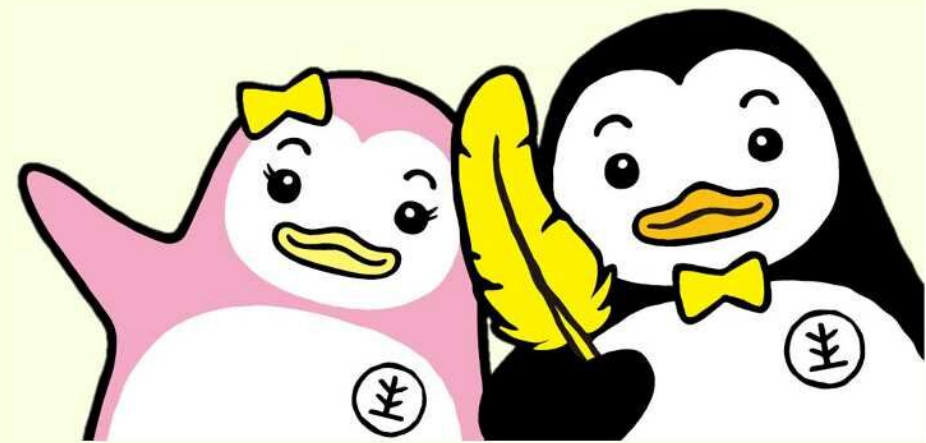


保護司へのインタビュー

保護司とは・・・

保護司は、法務大臣が委嘱する更生保護のボランティアで、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことのないようその立ち直りを助けるとともに、犯罪予防のための世論の啓発に取り組むなど、安全・安心な地域社会づくりのために活動しています。

保護司のことを定める法律に「保護司法」があり、全国の保護司の定数は52,500人と定められています。



保護司インタビュー01

保護司になったきっかけは？

坪井さん（名古屋市）
保護司歴19年 会社経営



地域で古くから保護司をしていた人と友達付き合いがあり、その人に何度も頼まれ、また、近所で退任する保護司からも頼まれ受けることにしました。知人に頼まれ断れず保護司になった人は多いと思います。(笑)

その時は、保護観察になってきた人が怖いとは思いませんでしたが、保護観察になった人達の人生を左右するようなことはできないと思い、自分が務まるかなあ、との不安がありました。

ご家族の反応は？

保護司になる時は家族に相談しました。私の場合は、対象者との面接場所は応接室を使用し、家族と接することがないこともあり、家族からの反対はありませんでした。先日、保護司の用で遠出することになった時、知らないうちに子どもが切符を購入してくれたことを知り、いつの間にか、保護司活動を理解してくれていたのかと思いました。

保護司インタビュー01

保護観察になった人達との関りについて



社会の中で立ち直ってほしいとの思いで対象者の人と接していますが、保護司としてというよりは、保護者として関わるようにしています。ある時は親のような気持ちで接し、上から目線で接しないよう心がけています。

そのような関りを続けているうちに、タメ口で話をしてくれたり、本音で話をしてくれるようになります。

そこが大切！！

信頼関係が構築された後に、“方向性を示し対象者が自分で考える”機会を作るようにしています。その際も必ず「無理せずに」とか「私の考えでは」と付け加え、強制力を持たせないよう注意しています。

保護司インタビュー01

保護司活動を経験して・・・



対象者との出会いは、自分の人生経験にないことを経験してきた人との出会いでもあり、様々なことを教えてもらえるので、面白い！！

民間人の地域の一員として、保護観察が終わった後でも道で会った時に向こうから声をかけてきたり、子どもが生まれたと報告に来てくれた時は、保護司としての“喜び”や“やりがい”を感じます。

エピソード

暴走族や交通違反をした少年を多数担当したことがあります。過去には、改造バイクで爆音を鳴らして来る少年もいましたが、対象者からバイクの楽しさを聞いているうちに、私もバイクに乗りたくなり（笑）、単車の免許を取得し、それ以来ツーリングが趣味となりました！！

保護司インタビュー02

保護司になったきっかけは？

吉田さん（名古屋市）
保護司歴18年 主婦



義理の父と友達だった地域の保護司が退任することとなり、私に声がかかりました。

当時、私は民生委員として、地域に住む刑務所に何度も入ったことがある単身高齢者の方と関わった経験がありましたので、保護司を受ける時はそれ程怖いイメージはありませんでした。

保護観察になってくる人達は、基本的にやり直そうと思っている人なので、怖いとか不安とかはありませんでした。

保護司活動の不安、保護司になることを迷っている人へ

不安に思った時は、先輩保護司や保護観察官に聞いていました。そのうち次第に不安が減り、自分なりのやり方を作り上げてきました。今は不安はありません。

元気で健康で動ける人なら、誰でも保護司はやれますよ！！

保護司インタビュー02

保護観察になった人達に対して



面接する場所は、自宅だったり、更生保護サポートセンターだったり様々です。

保護観察の方に対しては、

- 相手の話をよく聞き、
- 嘘をついていることがわかった時も、そのことを一旦受け止め、責めない
- 対象者が自分のことをわかってくれている、と思えるようにしています。

面接に来てくれた時は、「面接に来てくれて、ありがとう」「何かあったら相談に乗るから」と伝えます。

刑務所入所や保護観察になる等、人生の岐路に立つような経験をしてきた人が、自棄を起こすのではなく、辛い経験に耐えてやり直そうとすることは、これからの強みになると伝え、励ますようにしています。

保護司インタビュー02

保護司としてのやりがいとは？



保護観察が終わった後、困ったことがあると相談に来てくれたり、保護観察が終わって何年も経過している人から「吉田さんを思い出して連絡した。自分は元気だけど、吉田さんどうしてる？」と定期的に連絡をしてくれる人もいます。

嬉しいですね！！

保護司としての経験を生かして

私は、他の保護司と毎月「**薬物依存当事者の家族の集まり**」を運営しています。当事者だけでなく、家族も悩みを抱えており、その思いを吐き出せる場を設け、家族が元気を取り戻すことは、当事者の立ち直りにつながります。元気になっていく家族の姿を見ることは“**喜び**”です。

保護司として保護観察対象者やその家族との出会いで思うことは、
“**生き辛さを抱えている人を理解する人が一人でもいたら、立ち直る力や励みになる**”
この思いが、私の“**やりがい**”になっています。

保護司インタビュー03

保護司になったきっかけは？

浅田さん（名古屋市）会社経営
保護司歴7年



地元の先輩保護司から声をかけられた時は、PTA会長を辞めて一段落し、時間的に余裕ができたときでした。PTA会長の後任者を私が頼んで引き受けてくれた人の思いと、今回、保護司のなり手がなくて、声をかけてもらったことを重ねて考えていました。地域とのつながりを大切にしたい気持ちもありました。

正直最初は、保護司の引き受けは渋々でしたが、保護司の先輩達を見ているうちに、**地元への恩返し**のつもりで活動するようになりました。

ご家族の反応は？

最初、家族から反対されました。しかし、私の従姉が他県で保護司をしており、保護司になることを勧めてくれたこともあり、家族も承諾してくれました。保護司として家族と接点を持たないやり方をしていますので、今では、私が保護司をしていることを忘れていくかもしれません。（笑）

保護司インタビュー03

仕事と両立するのって大変？



対象者の方は就労していることが多い。そのため、面接をする時は、お互いに仕事を終えた夕方の時間に会うようにしています。仕事帰りに寄ってもらい、会社の会議室を利用して面接を行っています。

お互い仕事を終えてから面接すればよいので、**仕事と保護司の両立は難しいです。**

サラリーマンの方でも両立はできますよ。一度やってみませんか！！

保護司活動で心配なことは？

今は心配なことはありません。対象者との面接場所が問題となっていますので、同じ学区の保護司には、面接場所に困ったら私の会社の会議室を使ってもいいですよと伝えています。自宅以外の面接場所が各学区にあるとよいですね。

保護司インタビュー03

保護司になってよかったことは？



地域で頑張っている先輩保護司は優しい方が多く、その先輩達を見習いたいと思っていますので、その方々と一緒に活動できることは、私にとってよい経験となっています。

保護観察になった方は、基本的には反省して私の所に来ていますので、話をよく聞くようにしています。面接を重ねるうちに徐々に信頼し、フランクに話をしてくれるようになったり、面接の約束を守るようになります。約束に遅れる時は、事前に連絡をくれる人もいます。

保護観察を無事終える時は、対象者の方と同じように“達成感”を感じます。終わる時は、「困った時は一人で抱え込まず、いつでも連絡してくるように」と声かけしています。